

一般財団法人日本心理研修センター主催「平成 27 年度冬季研修会」
～心理臨床の視野を広げる～

諸領域における心理支援の知識と課題

一般財団法人日本心理研修センターは本年度設立3年目となります。心理職の資質の向上及び協働させていただく諸職種の方々の連携を視野に、本年度から各領域における専門性の向上をテーマに研修会を開催いたします。

【開催日】 その1： 平成 28 年 3 月 12 日（土）10:00～16:30（研修開始 30 分前に受付を開始します）

その2： 平成 28 年 3 月 13 日（日）10:00～16:30（ 〃 ）

その3： 平成 28 年 3 月 20 日（日）10:00～16:15（ 〃 ）

【定員】 合計 約 1,000 名

【参加費】 1 講座 7,000 円

【参加資格】 臨床心理士、臨床発達心理士、学校心理士、特別支援教育士、他の心理系学会認定資格者、心理職実務者、守秘義務のある専門職、心理学関連大学院生

【申込予約】 一般財団法人日本心理研修センターホームページより（<http://shinri-kenshu.jp/>）

【共催】 一般社団法人日本臨床心理士会、日本臨床発達心理士会、一般財団法人特別支援教育士資格認定協会、日本学校心理士会

【後援】 一般社団法人日本心理臨床学会、日本人間性心理学会、一般社団法人日本発達障害ネットワーク（予定）
一般社団法人日本認知・行動療法学会、一般社団法人日本発達心理学会、
一般社団法人東京臨床心理士会

<その1：3月12日（土）>

【会場】 跡見学園女子大学文京キャンパス 地下鉄丸ノ内線茗荷谷下車2分

●プログラム第11）発達障害等による読み書き困難のある児童生徒へのICT利用（研修時間5時間）

発達障害、特にLD等の読み書き計算等に困難のある児童生徒に対しては、紙や鉛筆を使った読み書き訓練だけにこだわらず、ICTを活用して彼らの学びを支え、教室での学びや試験の参加を保障するアプローチが必要です。本研修では、ICTにより学びを保障する際に必要な考え方（機能代替アプローチ）、身の回りにあるICTを活用して読み書きを支援する方法、ICTによる教室や試験での合理的配慮の事例と、その可否を判断する際に参考となるアセスメントの実例、その他の多様な情報源について知ること、ICTを児童生徒自身が活用して、主体的に学ぶ個人を育てるための基礎を学びます。

（プログラム）

講師：近藤 武夫（東京大学先端科学技術センター）

10:00～11:00 発達障害による読み書きの困難のある児童生徒・学生のICT利用の考え方

11:00～12:00 ICTを利用した支援の海外での事例：初等中等教育、高等教育での利用から

13:00～14:00 タブレット（iPad、Windowsタブレット）によるICT支援の具体例

14:00～15:00 ICT支援と合理的配慮の判断（教室・試験での利用許可やアセスメント活用）

15:00～16:00 ICT支援を助ける資源（教科書デジタルデータや支援団体等の情報源）

16:00～16:30 質疑応答

●プログラム第12) 若年無業者ニート・ひきこもり支援講座 (研修時間：5時間)

発達障害、精神障害の疑いを含む当事者のアセスメントに基づくさまざまな支援と家族への支援について、認定NPO法人育て上げネットの実践を基に、支援の全体と心理職の課題を検討します。

昨今の社会経済状況、なぜ若者が無業に陥るのか、そして長期化するのかをデータと事例をもとに解説します。その上で、発達障害・精神疾患の疑いはあるが手帳取得にまで至らない若者への就労支援、および(本人が支援機関に繋がらない場合)本人を支援機関に繋げるための家族支援について考えます。

(プログラム)

10:00～11:30 若年無業者ニート・ひきこもりの実態について

講師：藁田 薫 (認定NPO法人 育て上げネット 若年支援事業部 ジョブトレ・母親の会「結」事業責任者 (産業カウンセラー))

12:30～14:00 発達障害・精神疾患の疑いがある方へのアセスメント・就労支援について

講師：古賀 和香子 (認定NPO法人 育て上げネット 若年支援事業部 ジョブトレ運営責任者 (社会福祉士/ICDS キャリア・コンサルタント))

14:00～16:00 若年無業者ニート・ひきこもりの子どもを抱える家族支援

講師：森 裕子 (認定NPO法人 育て上げネット 母親の会「結」家族支援担当者)

●プログラム第13) (心理職のスタンダード：「医療領域科目」※)

医療で働く心理職が知っておきたいこと (研修時間5時間)

医療現場で心理職として働くにあたっては、病名、薬の知識等もちろん重要ですが、それ以前に、制度としての「医療」や「病院」を知り、それがどう動いているのかを知る必要があります。午前の部では医療安全、感染管理、各職種の役割など、医療のどの分野でも必要な、基本中の基本を学びます。今回の講義では、薬や病名の話はメインにはなりません。また午後には、医療における倫理の考え方の基本を学びます。自分の職種の倫理綱領だけにとらわれず、幅広く学んでいきます。午前午後に渡りチーム医療の中で多職種と共に働くときに知っておきたい医療関連職種としてのポイントをおさえていきましょう。

(プログラム)

10:00～12:30 心理職が知っておくべき医療の基礎知識

講師：中嶋 義文 (社会福祉法人 三井記念病院精神科)

13:30～16:00 医療における倫理

講師：桑原 達郎 (防衛医科大学校)

※ 心理職のスタンダード

日本心理研修センターでは、各領域における心理職が最低限知っておかなければならない項目を網羅した研修のスタンダードを作成中です。一定の経験をお持ちの心理職の方が若手の心理職に職務の指導をされる際の基本となるものです。

研修のスタンダードを構成するのに先行して、本研修を心理職のスタンダード習得のための医療領域科目として位置づけます。心理職の研修のスタンダード公表後には、受講された方を本科目「既習」として登録いたします。若手職員を指導される立場の方、他職種との常日頃連携を行っている方には、特に受講をお勧めします。

(次ページへ続く)

(前ページより続く)

●プログラム第 14) 「あいまいな喪失」の理論と援助：家族療法の視点から (研修時間 5 時間)

「あいまいな喪失 (ambiguous loss)」とは、喪失そのものがあいまいで不確実な状況のことをいいます。親の離婚、重度の認知症、家族が行方不明、ワーカーホリック、依存等、様々な例が挙げられます。ミネソタ大学名誉教授の Pauline Boss 博士は、「あいまいな喪失 (ambiguous loss)」を「はっきりしないまま残り、解決することも、決着を見ることも不可能な喪失体験」と定義しています。そして、通常の喪失とは異なり、喪失そのものが不確実なため「前に進むことができなくなってしまう」と述べています。

本研修会は、Pauline Boss 博士が提唱する「あいまいな喪失」理論と援助方法を理解することを目的に実施いたします。そのため、座学だけではなく事例を用いたグループディスカッションを交えた参加型の研修にしたいと考えています。グループディスカッションを充実したものにするために、参加される方は出来るだけ事前に JDGS の「あいまいな喪失について」の web サイト (<http://al.jdgs.jp/>) をご覧いただけますようお願いいたします。

(次ページに続く)

(プログラム)

講師：石井 千賀子 (ルーテル学院大学 TELL カウンセリング)

黒川 雅代子 (龍谷大学短期大学部)

10:30~10:40 企画趣旨説明

10:40~11:40 「あいまいな喪失」理論

11:40~12:30 援助方法①「ジェノグラム」の活用

13:30~14:30 援助方法②「あいまいな喪失」援助のためのガイドライン

14:30~16:10 グループディスカッション及び発表

16:10~16:30 ディスカッション 「あいまいな喪失」援助における課題

<その 2 : 3 月 13 日 (日) >

【会 場】筑波大学東京キャンパス文京校舎 地下鉄丸ノ内線茗荷谷下車 2 分

●プログラム第 21) 神経発達症群と脳機能 (研修時間 5 時間)

2013 年 5 月に発表された DSM-5 さらに 2014 年 6 月の日本語訳版において、それまで発達障害と呼ばれていた一群の疾患は、神経発達症群 (Neurodevelopmental Disorders) という名称でまとめられる方向になっています。神経発達症群にかかわる様々なトピックスを、脳機能とのかかわりから考えてまいります。

子どもたちが抱える障害の病態を周囲の大人が正しく理解することで、適切な支援につながることを期待しています。

(プログラム)

講師：小野 次朗 (和歌山県発達障害者支援センター)

10:30~16:00 (昼食休憩あり)

(神経発達症群における主な合併症・併存症と予後) (神経発達症群における薬物療法と適応と効果)

(神経発達症群における二次障害とその背景要因) (医療と教育、心理の連携の必要性について) など

16:00~16:30 質疑応答

(次ページへ続く)

(前ページから続く)

●プログラム第 22) 夫婦・家族関係の理解と援助の基礎 (研修時間 5 時間)

近年の社会の急激な変化と共に、親子・夫婦・家族のありようも大きく変わってきました。それにと
もなって、さまざまな心理臨床現場にも、家族の問題が持ち込まれることが増加しており、どう理解し
たら良いのか、どのように対応したら良いのかという迷いや不安、葛藤を感じる心理臨床家も少なく
ないようです。とりわけ、夫婦や家族を交えた合同面接では、家族一人一人の心理的世界を理解するの
だけでは十分ではなく、家族の関係性をとらえる視点と能動的なかわり方が求められます。

この研修の第 I 部では、家族の問題を扱う際の個人療法と夫婦・家族療法それぞれのメリットと難し
さ、個人や家族が抱えている問題を理解する上での 5 つの次元、夫婦・家族合同面接の成否を大きく左
右する夫 (父親) への関わり方、セラピスト自身の自己理解などについて取り上げます。第 II 部では、
夫婦・家族合同面接におけるセラピストの基本的態度・技法として、ジョイニング、多方向への肩入れ、
戦略的中立性、リフレーミングなどを取り上げ、最後に不登校の問題を抱えた家族の合同面接の DVD を
視聴して、家族とのかかわり方の実際を学びます。

日頃は個人を対象とした臨床実践を中心に行っていて、クライアントの夫婦・家族関係についての理
解を深めたい方、夫婦・家族合同面接を取り入れたいと思っている方、そして、夫婦・家族合同面接に
対して不安や疑問を感じている方の参加をお待ちしております。

(プログラム)

講師：野末 武義 (明治学院大学心理学部)

10:00~12:30 第 I 部 夫婦・家族関係をどのように理解するか

13:30~16:00 第 II 部 夫婦・家族合同面接におけるセラピストの基本的態度と技法

<その 3 : 3 月 20 日 (日) >

【会 場】エムワイ貸会議室お茶の水 JR御茶ノ水駅下車 2 分

●プログラム第 31) はじめての高次脳機能障害Ⅱー成人編ー

～高次脳機能障害を神経心理学的に理解する～ (研修時間 5 時間)

人生の途上で突然の病気や事故などにより、予期せぬ脳損傷を被り高次脳機能障害を負った人たちを、
どのように理解し具体的な支援 (認知リハビリテーション) をしていくのかを学ぶためには、基本的な
神経心理学的な知識が必要です。神経心理学的な知識とは、大脳の機能局在とその働きについての理解
です (脳機能から症状を理解する)。

高次脳機能障害とは、大脳の部分的な損傷により、言語、思考、記憶、注意、学習、行為などの機能
に障害が起こった状態です。本講座では、高次脳機能障害を理解するために、基本的な神経心理学的な
知識を学び、心理士として神経心理学的な視点から具体的な支援について紹介していきます。認知リハ
ビリテーションはどのような視点から発展し、現在、どのような方向へ発展していくのか、について症
例を通して説明していきます。

(プログラム)

講師：中島 恵子 (帝京平成大学大学院臨床心理学研究科)

10:00~12:00 基本的な神経心理学的知識を学ぶ

13:00~15:00 認知リハビリテーション

15:15~16:15 高次脳機能障害の認知リハビリテーション

上記プログラム (講師、テーマ、時間等) は予告なく変更される場合があります。

お申込みにいただく場合には、最新のプログラムをご確認いただいた上で研修会にご参加ください。